

令和6年度第2回四街道市史編さん委員会 会議録

- 1 日時 令和7年2月19日（水）10時00分から11時26分
- 2 場所 四街道市役所第二庁舎 第2会議室
- 3 出席者 **【委員】（敬省略・名簿順）**
須藤委員（委員長）、煤澤委員、遠山委員、綿貫委員、中臺委員（副委員長）
【事務局】
（社会教育課）田島課長、松尾市史編さん室長（課長補佐）、伊藤主事
中村市史編さん主任
- 4 欠席者 （敬省略・名簿順）林委員、笹川委員
- 5 傍聴人 なし
- 6 議題（概要）
 - （1）『四街道市の歴史』資料編近現代1の構成案及び掲載資料について
事務局から内容を説明し、委員の意見を伺った。
 - （2）『四街道市の歴史』資料編近現代1 印刷製本に係る予定（概要）について
事務局から次年度の印刷製本に係るスケジュール（概要）説明し、委員の意見を伺った。
- 7 議題に対する
主な意見 ※（ ）内は意見を述べた委員
 - （1）『四街道市の歴史』資料編近現代1の構成案及び掲載資料について
 - 掲載資料「第1章第3節 産業・経済」について
 - ①総武鉄道開設に携わった人物の家より、同鉄道開設に係る資料を外に出す旨のお知らせを目にした記憶がある。その中に四街道に係る資料がある可能性があるので、4月以降情報提供する。（綿貫委員）
 - 構成案「8 コラム 広告・表彰」及び掲載資料「第1章第4節 教育」について
 - ①青年団等が県から表彰を受けた旨の新聞記事を掲載する予定とのことだが、これらとは別の者の家から「我が家でも表彰されている筈」の旨の指摘を受ける懸念が、いささかある。（須藤委員長）
 - ②（須藤委員長の意見について、当該表彰に関する資料が新聞記事

以外残っていない旨の中村主任の説明を受けて）表彰を受けた者を
全て調査することは当然のようにできないため、新聞記事を掲載すると
いうことで問題無いと考える。（榎澤委員）

■その他は、須藤委員長、榎澤委員、中臺委員から、事務局の説明に対
する質問や確認を事務局に求めるに留まった。

（2）『四街道市の歴史』資料編近現代1 印刷製本に係る予定（概要）につ
いて

■特に意見は無かった。

8 議事

須藤委員長 —【開会】—	おはようございます。これから令和6年度第2回四街道市史編さん委員会を開催し ます。
事務局（田島課長）	それでは最初に事務局の田島課長からご挨拶をお願いします はい。 （事務局田島課長 挨拶） 引き続き事務局から会議の成立について、確認をさせていただきます。 本日、林委員、笹川委員におかれましては、欠席のご連絡をいただいております。 本日5名の委員をご出席いただいておりますので、過半数の出席がござい ます。四街道市史編さん委員会条例第5条第2項の規定により、会議が成立してござい ますことをご報告申し上げます。
須藤委員長 —【委員長挨拶】—	ありがとうございました。それでは私からもご挨拶いたします。 （委員長 挨拶） それでは事務局お願いいたします。
事務局（松尾室長） —【会議の公開等】—	事務局の方から申し上げます。 本日の会議の内容ですと、非公開とする理由もございませんので、本日の会議を公 開としたいと思っております。
須藤委員長	今、事務局からの話がありましたように、今日の会議については「公開とする」というこ とでよろしいですか。

	(「異議なし。」との声あり。) はい、それでは事務局お願いいたします。
事務局（松尾室長） —【会議録の作成】—	もう一点、会議録につきまして、要点筆記とし、発言者様のお名前は明記させていただきたいと思います。 また、議事録は、発言者の方にご確認いただくということで、よろしくお願いいたします
須藤委員長	今のご説明でよろしいですか。 (「異議なし。」との声あり。) はい。ありがとうございました。 それでは、事務局は会議録の作成をお願いします。 それでは、傍聴の件につきまして。 今日、傍聴の方いらっしゃいますか。
事務局（伊藤主事）	傍聴人は、ございません。
須藤委員長 —【議題】—	はい。ありがとうございました。 それでは、議題に入ります。 議題（１）『四街道市の歴史』資料編近現代1の構成案及び掲載資料について 事務局の方からご説明をお願いします。
事務局（中村主任）	それではご説明します。 表紙、口絵、市長あいさつ、本書の構成、凡例、資料細目次というように、前回出版しました「近現代3」の構成を踏襲しておりまして、基本は、全く同じのようになっていますけれども、資料目次としては、全体で3章構成となっています。 第1章が「明治大正昭和初期のむら」で、明治2年から昭和11年の資料 第2章が「戦時体制下の町村」で、昭和12年から20年の資料 第3章が「農民の記録」で、日記類を中心としており、

	以上、3章の構成になっています 「近現代2」において、軍事関係の資料を中心に出版しましたので、今回は軍事関係を除いた村の様子、町や村の样子の資料を載せる、ということになっています。 第1章が、明治から昭和初期の間ということで、構成としては、5節の構成です。 第1節が「政治」。 ここに大塚常次郎という人物がおりました。 この人物は戦前に四街道で唯一の衆議院議員だった人で、明治期に県会議員と衆議院議員でしたので、この人物に関する資料を載せます。 政治関係を中心に大塚常次郎を取り上げる予定です。 戦前は、大塚常次郎以外に代議士は全くいません。 この人物は重要ということで取り上げる予定です。 第2節は「行政」ということで、通達文書が中心ということになります。 事務報告書が1点入っています。 第3節が「産業経済」ということで特に明治27年前後になるかと思われますが、四街道市に総武鉄道が県内で最初に通りましたので、その鉄道関係、その他の基幹産業は農業ですから、その2グループを中心に掲載する予定です。 第4節は「教育」。 これは学校教育が主ですが、特に千代田村・旭村は青年団運動が戦前は非常に活発でした。 大正期に優良団体で表彰されておりまして、40周年記念写真集でも掲載しておりますが、その絵葉書も出ておりますので、青年団の資料を掲載する予定です。 第5節が「社会生活」。 第2章は「戦時体制下の町村」ということで、 こちらも骨組みとしては、第1節行政、これは通達文書ですね。事務報告書1点。 第2節の産業経済、この時代になりますと、通達文書が多いので、農業を中心とした資料を載せる予定です。 第3節は「教育社会」。 第3章「農民の記録」は、第1章「明治の日記」と第2章「戦時下の日記」に
--	--

	分けて載せる予定です。 「近現代2」には無く、「近現代3」にはありましたコラムですが、広告・表彰が、その内容です。 なぜこちらを載せるかというと、広告は、第1章の第3節にも関係しますが、基幹産業は農業なのですが、四街道は、戦前は「軍隊の街」という特殊なまちでしたので、 軍隊にまつわるお店が多かったのですが、現実として、その資料が中々ありません。 一方で、有力なお店が、新聞に広告を出しておりましたので、どんなお店が広告を出していたのか、ということを取り上げる予定です。 昭和に入ると、それがほとんど無いのですが、明治・大正時代は多くありました。 それから、表彰について、戦時下になってきますと、色々な表彰が行われていきます。千代田村と旭村には、どんな団体があって、表彰されていたか、というものを取り上げます。 次に、資料解説、あとがき、関係者名簿、裏表紙ということで、大体266ページになる予定です。 資料は250ページ弱、197点とありますけれども、直近の作業では196点になっています。 この細目次を説明したいと思います。 全体的な資料の資料文としては、 「近現代2」にもありました井岡家です。 千代田村の井岡家というと、相当資料がありますので、千代田村の井岡家の資料と、今は佐倉との境になっています亀崎区の区有文書が中心です。 その他は、新聞の記事を載せる予定です。 硬い資料だけだと少し読みづらいものになりますので、新聞を織り交ぜる予定です。 この井岡家と亀崎区と新聞で、8割ほど占めることになると思います。 その他としては栗飯原家、栗原東洋文庫、小川家、林田家、近藤家、楠岡家、櫻井家、篠崎家と、ほとんど「近現代2」で掲載した資料をご提供いただいた家の資料を使っています。
--	---

	新しい家は、楠岡家だけだと思うのですが、楠岡家の資料は、40周年記念誌「写真に見る四街道の歴史」で多くを使っています。 それから、旭小学校の資料が1点ありますので、それを使っています。 それから他の市町村の資料も後で出てきますが、成田・我孫子・柏・千葉市中央図書館所有のものにつきましても、数点ですけれども、使う予定です。 細目次のご説明は以上です。
須藤委員長	はい。ありがとうございました。 ただ今、構成案の概略をご説明いただきましたが、「掲載資料一覧（案）」のご説明につきましては、皆さんの質問等を伺った後とさせていただきます。 それまでの事務局の説明に意見なり質問なりありましたらお願いします。 よろしいですか。 8の「コラム」は、新聞の広告ですか。
事務局（中村主任）	そうです
須藤委員長	具体的には、旅館の宣伝などですか。
事務局（中村主任）	そうです 旅館や料理屋などの店の広告です。 明治に東海新聞、房総日日新聞に掲載されておりまして、昭和になると広告はほとんど無いです。
須藤委員長	新聞ですので、いつ出されたかははっきり判るわけですね。
事務局（中村主任）	判ります。 その時代に店が広告を出すぐらいですから、店が繁盛していたことが判ります。 商店の資料が他にありませんが、新聞に広告を載せるぐらい繁盛していた店があった様子が判ります。 料理屋の「武蔵屋」なども広告を出していて、相当繁盛している様子が判ります。

須藤委員長	資料に掲載していいかどうか、という判断に迷うような記事は存在しない、と考えてよろしいですか。
事務局（中村主任）	無いと思います。
須藤委員長	もう一つ「表彰」ですけど、「表彰」というのはどの基準で見ているのですか？
事務局（中村主任）	戦時下になると、表彰が何故活発になるかという、『表彰をすることによって、その運動を高める』という意識が戦時下には起こってきます。 例えば、勤労働員などがあります。 戦時下は総力戦となりますから、そのためには、団体を表彰して持ち上げる、という行為が、昭和12年以降から出てきます。 どういう団体が表彰されていたか、ということが判ると、当時、例えば、旭村はどんな運動をやっていたのか、ということが判ります。
須藤委員長	表彰は、団体だけですか。個人もありますか。
事務局（中村主任）	個人もあります。
須藤委員長	「表彰」についてですが、その掲載漏れを気にされる人も、たまにいらっしゃいます。 『自分の家でも、同じ表彰を受けた筈だ』と主張される方も出てくる可能性が考えられます。 だからといって、表彰者を全部調査することは不可能に近いのですが。 例えば、県知事表彰を受けた方を掲載した場合に、実は、同じ時に他の方も表彰されていたにも拘わらず掲載されていない、などのご意見を受ける懸念がありますよね。 そこまで気にしたら、表彰に関する記事の掲載は出来ないのかもしれませんが、このような懸念をどう考えればよいでしょうか。
事務局（中村主任）	表彰の記録は、四街道市役所には残っていませんので、全部取り上げるのは無理となります。
須藤委員長	そうですね。
事務局（中村主任）	ですから、新聞で取り上げられたものに限り掲載するということになります。
須藤委員長	委員の皆さん、今のお話いかがお考えですか。

榎澤委員	今、お話があったように、全部取り上げることは、当然のようにできません。 『新聞に載ったもの』ということでもいいと思います。
須藤委員長	そうすると、記事に、そのような断りの記載をした方がいい、ということになりますか。
事務局（中村主任）	資料に掲載されるものは、『何年何月の新聞の記事』と記載されます。
須藤委員長	分かりました。 他に質問はありますか。
綿貫委員	第1章の第3節の部分に関係ありますが、 実際に総武鉄道の創設に関わった方の家の人が、当時の資料を手放す旨のお知らせを目にした記憶があります。 そのうち、四街道に関わりがあるものがあるのか否かは不明ですが、未だ県内に知られていない総武鉄道の創業時代の様子が明らかになると思います。 私がチェックできるのは、3月中には厳しいと思います。 もう少し時期を待たなければならないことになると思います。
須藤委員長	そうですか。そうすると、良い資料だと資料が差し替えられることになりますね。
綿貫委員	そのような資料がありそうな気がしています。
須藤委員長	そうですか。それは貴重です。 千葉県全体のこれからの歴史資料で、そのような資料を入れ込む機会はないと思います。
事務局（中村主任）	無いですね。 あと数十年以内は無いかもしれません。
須藤委員長	市町村市でもそういうものを入れる必要性ってほとんど無いですね。
事務局（中村主任）	そうですね。 今、この沿線の歴史を取扱っているところでは、千葉市はその時期は終わっています。 あとは成田市が取扱う可能性が考えられる程度です。

綿貫委員	未だ、『その情報を目にした記憶がある』という段階ですので、確認するには4月頃になるかと思いますが、その時分になりましたら、中村主任にご連絡します。
事務局（中村主任）	まだ、資料は差し替えられます。
綿貫委員	それでよろしければ後日ご連絡します。
須藤委員長	ありがとうございます。折角ですから、そういう資料が入ってくると、大きくボリュームが変わりますよね。 この後で、具体的な掲載資料の説明がありますので、そこでまた質問があればお願いします。 それでは、次に「掲載資料一覧（案）」のご説明をお願いします。
事務局（中村主任）	それでは、ご説明します。 第1章「明治・大正・昭和初期のむら」 第1節「政治」になります。 年月日、表題、所蔵者の項目となっております。 この表は所有者別の記載となっております。年代別にはなっていません。 上は井岡家、栗飯原家という風になっています。新聞記事もあります。 ここでは、先ほども言いました、唯一の代議士の大塚常次郎の書簡と新聞資料を中心に掲載しました。 他にも、茂原の斎藤家にも大塚常次郎の書簡が2点あるのが判かりましたが、良い内容であれば、差し替えますが、あまり良くない資料と判断した場合においては、このままでもいいと思います。 今のところは、この書簡類でやっていきたいと思います。 また、成田、我孫子、柏の有力者の家に残っていた書簡も掲載する予定です。 第2節「行政」は、通達文書ですけども、 上からひと通り通達文書で、2ページの上から3点目の「長岡村誌」は、後に大字として残りますが、明治期に千代田村・旭村になる町村合併の前に、『村の歴史を纏めるように』と、県下全域の村に通達を出して作らせたものだと思うのですが、ここでは長岡村のものしか残っておりませんでしたので、これを一つ入れる、ということにしております。

	上から4点目の「村是」というものは、年月日は不明ですが、恐らく明治末期又は大正期だと思われますが、村の活動を活発にさせるために、こういうものを作らせて、全国に展開した一つの例として掲載する予定です。 5点目、6点目は明治の町村合併の時の資料です。 千代田村がいかにして作られていたかという資料です。 この千代田村ができる以前にも、町村合併が行われていたのですが、（部落が）あちらにつく、こちらにつく、のような『揉めごと』がありました資料も、一つ掲載予定に入れております。 第2節の「行政」は行政文書ですので、ここでは有名な出来事を入れていく構成にしています。 そのため、大正天皇崩御から、昭和恐慌、経済の緊縮問題や農村不況の資料を掲載する予定です。 320番の「昭和7年8月3日 失業救済事業ニ関スル協議会開催ノ件」について、当時は失業問題が非常に問題になったのですが、『開催の件だけ』となりますので、この項目はカットしようと思っております。 それから経済更生運動も、当時は活発化していましたので、掲載する予定です。 また、当時の税金の問題についても掲載する予定です。 新聞記事では、中々資料がありませんでしたが、『四街道』という地域が非常に特殊で、千代田と旭の村に比べて、同等の力をつけていったということで、千代田村と旭村の中間にまたがっていた四街道の、独立のような運動を、新聞記事が伝えていますので、それを何点か掲載予定に入れたということです。 以上が「行政」の説明になります。 3ページの第3節「産業経済」ですが、 ここは先ほど申し上げた鉄道に関する問題です。 これは井岡家に残っておりまして、井岡家の土地が鉄道敷設予定地にかかっていたため、土地の問題、損害賠償の保証の問題などがありましたので、それは地元を知る資料としては非常に面白いのではないかと、いうところを取り上げております。
--	--

	物井駅に関しては、1点ぐらいしかありませんでしたので、その1点を入れたという程度です。 ほとんど、四街道駅周辺の問題、ということになっております。 あとは、四街道は農業が基幹産業でしたので、『農会の運営』という資料を出してありました。 86番と87番までの、印旛の農会が出した印刷物につきましては、『こういった農会が、こういう印刷物を出して、農民に普及していった様子が判る』という資料となります。 380番は鹿島川の問題で、これは大きい問題だったのですが、中々他に資料がなく、1点だけ入れております。 それから、商売人に関する資料は無かったのですが、547番に四街道運輸会社の営業報告書が1点ありましたので、『ここを出そう』ということで掲載する予定としました。 新聞記事では、明治43年に料理店組合ができましたので、その組合の規約のような資料を掲載する予定です。 4ページは、1129番で事故の関係資料を載せております。 第4節「教育」ですが、 ここでは「学校教育と青年団」ということで、各青年団資料が、多数残っておりまして、544番と545番は、千葉市郷土博物館にありました、千葉市の石原家というところに残っていた青年団運動の資料が若干ありましたので、掲載予定に入れたということです。 青年団運動を活発に行っておりまして、その資料が中心となります。 学校教育ですが、本来なら小学校3つ（旭小学校・四街道小学校・南小学校）を取り上げるべきですが、 南小学校に関しては、第2章「戦時体制下の町村」に少し資料を載せておりますので、ここでは四街道小学校の新聞記事と、旭小学校の資料となります。
--	--

	第5節の「社会生活」では、 一般的な問題、コレラ、天然痘の病気の問題のほかに、次のページの一番上の日本住血吸病は、調べてみると、農村では相当有名な病気だったらしいです。 現在、私が住む旧根郷庄から、一帯にかけては、かなり被害があったという様子が判りますので、掲載予定に取り上げております。 あとは社会的な資料としまして、当時、房総日日新聞の支局があった関係で、この街の「花街」の様子が判る新聞記事を取り上げおります。 以上、第1章のご説明となります。
須藤委員長	はい。ありがとうございました。 今、第1章をご説明いただきました。 ここまででご質問がありましたら、いかがでしょうか。
中臺副委員長	「大塚常次郎」という人の関係の具体的な資料というのは、存在しないのですか。
事務局（中村主任）	存在しないです。 今、家は残っていませんので、大塚家文書という文書自体は存在がありません。
中臺副委員長	分かりました。
榎澤委員	確認ですが、この表では所蔵者ごととなっておりますが、製本時には年代順になるということですね。
事務局（中村主任）	そうです。
榎澤委員	この表は一節ごとに資料を並べたということですね。本になるとときには、節の範囲の中で順番が変わるということですね。
事務局（中村主任）	そうです。先ほどのように新しい資料が見つかった場合には、差し替える予定です。
榎澤委員	分かりました。
中臺副委員長	上野の入り口に大塚家の分家がありますが、そこには資料は無かったのですか。

事務局（中村主任）	今のところ、『資料がある』ということは、伝わっておりません。
	大塚常次郎は代議士を辞めた後は、東京の方に色々な事業に手を出しておりまして、県内では成田銀行・成田鉄道などを興しておりますが、他にも「鬼怒川水力発電」という電力会社を立ち上げたのですが、結局、どの事業も立ち行かなくなったそうです。
中臺副委員長	家が途絶えてしまったということですね。
事務局（中村主任）	そうですね。昔の政治家は、『井戸と塀しか残らない。』と言われることがありますが、その典型のような気がします。
中臺副委員長	今、山梨にあった大塚常次郎さんの家の付近は『大塚の森』となっていますが、定期的に綺麗に草を刈っていて管理されているようです。大塚家の関係の方が管理されているのですか。
事務局（中村主任）	分らないです。
中臺副委員長	はい、ありがとうございます
須藤委員長	ありがとうございます 山梨に家がありましたが、もう存在しておりませんよね。
事務局（中村主任）	そうですね。 それでは資料は残らないですね。 大塚常次郎さんに続く人はいないですね、お一人だけですね。 代議士としてはそうです。政治家として県会議員も2人しか出ていません。 大正期にも1人ほど出ていたことはありましたが、その家も、ありません。 県会議員でも、『印旛郡で何人か出る』という規模でした。 印旛郡の場合は、吉植庄一郎氏の吉植家のように、大体有力者が決まっていますので、中々四街道から『出る』というのは難しいです。
須藤委員長	そうですね。 今、第1章の昭和初期までのところでございましたけど、他に何かないですか。

綿貫委員	はい、どうぞ。 大正期の中で「四街道の町制問題」とありますが、その問題についての詳細なことが判る資料は出てきていないですね。
事務局（中村主任）	その頃は、四街道駅前の区域は商人が力をつけてきていますので、農村の人たちとの力関係を考えた中で、その地区を正式な行政区として上げよう、ということだと推測しています。 はっきりと『村から独立しよう』という意図があったか否かは、資料では判らないです。
中臺副委員長	今のお話ですと、千代田村と旭村があった中で、「四街道」という地区があり、その四街道地区は、千代田村の区域にも旭村の区域にも入っていなかったということですか。
事務局（中村主任）	当時は、千代田村と旭村しかなくて、商店街があった駅前の地域は、その両方にまたがっていた複雑な場所でした。 このように、商店街が千代田村と旭村をまたいでいたことから、商店街の人たちは、この地区だけでも『四街道地区』ということにして、区域の地位を高めようとしたと思われる、という内容です。 当時の行政区画は、『千代田村』・『旭村』のみでしたが、既に『四街道駅』という名前があり、全国的には、『千代田村』・『旭村』ではなくて、駅前の地域は『四街道』として名前が通っていました。 このような複雑な事情がありましたので、大正期に力をつけていたこともあって、当時の商店街の人たちは、『四街道』という行政地区を作ろうとしたのではないかと、いう推測です。
中臺副委員長	それは面白いお話ですね。
事務局（中村主任）	当時は駅周辺だけ、『軍隊の街』として特殊な地域でした。 他の演習場の地域から、今の吉岡の辺りまで農村地帯でした。 昔から千代田村・旭村に住んでいた人たちとは違って、この地域の人たちは、外部から来た方々ばかりでしたから、昔から住んでいた人で商売を始めた方はあまり居ませんでした。 戦後の開拓で、外部から来た人が四街道に住むようになったことは良く知られていますが、その前にも同じように外部の人が四街道に住むようになった過去があるということ

	です。 昔から代々受け継がれていったまちとは、四街道は事情が異なっている、ということです。 まちの成り立ちとしては、四街道は全国的にも珍しいです。
須藤委員長	この資料で、『四街道』というまちが出来てくる材料が入っているということですね。
事務局（中村主任）	そうですね。
須藤委員長	先程、綿貫委員がおっしゃった、総武鉄道関係の資料が、3節の中のどれかと替わることになる可能性がある、ということですよ。 出来れば、良いものが代わって入ることになれば良いですね。 第1章はこれでよろしいでしょうか。 （「なし」との声あり。） それでは、第2章のご説明をお願いします。
事務局（中村主任）	第2章は、「戦時体制下の町村」です。 第1節の「行政」は、戦争に関わる資料を載せております。 そのほか、「千代田村」が大正15年に「町」になりましたので、その新聞記事も載せています。 新聞の他に資料はございませんでした。 第2節「産業・経済」は 戦争に向けて食糧を増産する大変な時代なので、その食糧増産関係の資料を5～6ページで載せています。 あと勤労奉仕に関する資料を載せています。 1146番については、当時の戦時下の様子を、三宅先生の絵を含めて載せています。 三宅先生は戦後の有名な洋画家ですが、その先生の記事が見つかりましたので、先生の絵とともに載せられれば、と思っています。 第3節「教育・社会」については、

	戦時中ですので、防空壕関係となります。 防空壕関係と学校に関する勤労奉仕と国防婦人会。 7ページに入りますと、青年団に関する記録、それから神社が出来ますので、神社の 関係の新聞記事を載せます。 あと1139番の列車の転倒事故について、昭和17年の2月24日の新聞の記事で すが、この写真は40周年記念誌に掲載しております。 第3章の「明治の日記」は、 井岡家に残っていた明治23年～24年の資料ですけれども、そのくらい農民の動き が濃かったということです。 楠岡家の記録簿は結構書かれていますので、明治8年という、江戸時代からそん なに経過していない時期に農村がどのような様子であったか、ということが判る資料で すので、明治20年代と井岡家の資料と共に載せています。 第2節「戦時下の日記」。 桜井三郎さんの日記は、今のところ5ページ分ほど取り出しております。 当時どのような動員があったのかが判る資料となります。 篠崎家の日記も、昭和10年代の農村ではどういう動きがあったか、などの様子が判 る資料となっています。 当時の農村は、戦争に関するいろいろな出来事があって大変な状況であった、とい うことが判る資料となっております。
須藤委員長	これまでのご説明に関して何かご質問ありますか。 1点よろしいですか。 日記のところですが、井岡家は長岡ですよね。楠岡家は栗山、桜井家はどち らになりますか。
事務局（中村主任）	桜井家は吉岡になります。
須藤委員長	篠崎家はどちらになりますか。
事務局（中村主任）	篠崎家は中台です。

須藤委員長	皆さん、いずれも農家になりますか。
事務局（中村主任）	そうです。
須藤委員長	皆さん、比較的大きな家になりますか。
事務局（中村主任）	そうです。
須藤委員長	これまでご説明いただいた流れが資料の全体像になりますが、皆さん、何かご意見ありますか。 『ここが抜けているのでは。』というようなご指摘があれば助かります。 ご意見無いようですので、構成案からこれまでについて全体として何かご意見ありましたらお願いします。 よろしいですか。 （「はい。」との声あり。） それでは（１）の議題については、委員の皆さまからはご了解いただいたということだと思います。 皆さま、ありがとうございました。 それでは、議題の（２）についてお願いします。
事務局（松尾室長）	市史編さん室長の私、松尾から、着座にて失礼させていただきまして、ご説明させていただきます。 資料はご用意してございませんが、印刷製本業者等が決まっていない、ということもありまして、明確なスケジュールを資料でお出しすることができない状況でございます。 ご了承いただきたいと思います。 今後のスケジュール、つまり、印刷製本に係るスケジュールですが、その前にお話しすることがございます。 前回の「資料編２」の時は、スケジュールが最後に詰まってしまい、第２回の委員会開催時の２月には、ほぼ印刷が出来上がってしまった状態でしたので、皆様からご意

	見をいただいたとしても、そこから内容を動かすことは出来なかった旨聞いております。このことにつきまして、皆さまにご迷惑をお掛けしたということで、お詫び申し上げますとともに、 今回はこの反省点を踏まえまして、 できる限り前倒しで、製本作業を進めてまいりたい、こういうふうに考えております。 先ほど、委員長から、『次年度の今時分だと、もう出来上がっているような状態』というお話がありました。 このことについてですが、次年度の第2回目の委員会開催につきましては、早ければ12月、遅くとも1月の初旬から、中旬あたりに開催しようと考えております。 通常の印刷製本の校正作業は3回ございますが、第2回目の校正前の時点で、委員の皆さまに内容をお示しした中で、皆様のご意見をお伺いし、その内容を第2回の校正に反映させ、『第3回の校正は、最終調整』と考えております。 そこで3月の発行という運びにさせていただきたいと思っております。 このスケジュール感でいきますと、中村主任からご説明がありました、先程の「資料一覧（案）」の、一つひとつの項目を紙面にした中で、『何ページあるのか』という作業から取り掛かります。 その次に、先程の構成案の中の第1章、第2章、第3章の資料のボリュームである250ページ弱に収めるため、掲載する項目の枚数を調整する作業に入ります。 その作業が、今のスケジュール感で申し上げますと、遅くとも5月の連休明けには、その作業を確定させたいと考えております。 その後、早ければ6月の中旬に印刷業者と打ち合わせをした中で、印刷業者に第1稿の校正をお願いすべく、順次、資料を印刷業者にお渡ししていく予定です。 これにつきましては、先ほど榎澤先生からご質問がありましたとおり、年代順に並べ替えた中で、電子データを印刷業者にお渡しします。 そのためには、先ず印刷業者を決定しなければいけませんから、できる限り前倒しで印刷製本の入札執行を行いたいと考えております。
--	---

	ただ、入札につきましては、役所の運用上、当課では行わず、「契約課」という別の部署に、入札から契約まで事務処理の依頼をして、契約課が一般競争入札をかける、という段取りになりますので、どうしても期間を要します。 そういたしますと、できる限り前倒しで手続きを進めるにしましても、恐らく、5月の連休明けの公告を経て、6月の中旬頃に入札・開札を実施し、業者を決定する流れになるかと思います。 したがって、先程申し上げましたように、6月の中旬に印刷業者と打ち合わせの上、データを渡すというスケジュールとなると思っております。 その後、なるべく前倒しで、原稿データを順次お渡しした中で、早ければ12月中旬から下旬にかけて、2回目の校正前に皆様のご意見をお伺いする、というようなスケジュール感で参りたいと思っております。 また、現状といたしまして、中村主任のご説明の中にありました「掲載資料一覧（案）」の「解説NO.」の項に空欄の部分がありますが、この空欄の項目につきましては、データの作成作業中でございます。 この作業が終わり次第、先程申し上げましたように、紙面に起こし、合計250ページに収まるように、掲載資料を選定する作業ということになります。 このデータ作成作業は、予定ですと、3月中に終わる見込みでございます。 私の方からのご説明は以上でございます。
須藤委員長	今、室長から、「近現代資料編1」の作成のスケジュールに関しまして、現時点での心づもりをお話いただきましたが、このことにつきまして、皆さんの方で何かご意見ありますか。 いかがですか 今のご説明のとおりで中村主任大丈夫ですか。
事務局（中村主任）	前回よりは早い時間で流れていますので、大丈夫だとは思いますが。 そのとおりにいけば、大丈夫かと思えます。
事務局（松尾室長）	補足させてください。申し上げ忘れたことがございました。

事務局（中村主任）	著作権の問題が出てまいりますので、「掲載資料一覧（案）」の全ての資料につきまして、これから、権利者に掲載許可のお伺いをさせていただく作業に入りますが、場合によっては許可いただけないことも考えられます。 その場合は、当該資料については、カットしなければならない状況となります。あらかじめ申し上げます。 今のところは、所有者が許可しない、という事態にはならないと考えております。
須藤委員長	あと、著作権に関わることで、『（著作権の保護期間が）死後70年目』と言われています。 このことをクリアできていない資料は、除いたつもりではありますが、若干残っている部分がある可能性はあります。 スケジュールについては、そのくらいの感じでしたら、上手くいきますよね。 毎回、どうしても遅れがちになってしまうので、なるべくギリギリにならないようにしたいですね。 先程、室長のご説明にあったように、常に前倒しとすると、業者の動きの回転が良くなります。 スケジュールについての説明でしたが、このようなつもりでやりたい、ということでございますので、委員の皆さまよろしいですか。 （「はい。」との声あり。） それでは、議題については以上となります。 議題は終わりましたので、次第「5 その他」について、委員の皆さま、及び事務局から何かございますか。
事務局（松尾室長）	事務局からは、特にございません。
須藤委員長	はい。分かりました。 委員の皆さまはよろしいですか。 （「はい。」との声あり。）

	それでは、予定された日程は、以上でございますので、これで、令和6年度第2回四街道市史編さん委員会を終了します。 ありがとうございました。 (1時間26分)
--	--